

児童養護施設 平成24年度 事業報告

3つの課題にとり組みます

- 1 学力の向上をはかる（生きる力を身につける）
- 2 子どもの命と人権を守り育む
- 3 安心安全な環境づくりに取り組む

1. 学力の向上をはかる

- (1) 学習ボランティアによる個別学習 小学生男子31名中8名 女子15名中5名 中学生男子 12名中2名 女子 14名中2名 が受講し 基礎学力の向上を図った。
学習ボランティア(17名 H24.3.31現在) 学習習慣が身につけてきた。ボランティアとの学習状況に関する細かな連携が必要。
- (2) 通塾による高校進学にむけた能力の向上 中学生男子3名 女子2名 学力の比較的高い児童に進学塾を活用。全員が500点中350点以上の成績を常時おさめている。
- (3) 学力遅滞・低学力児 仲良し学級52名中14名(天小)支援学級22名中5名(天中)
生活意欲や登校意欲を持たせることを優先し、クラブ活動など特性を生かすことに力を入れたが、療育手帳B2取得の児童も5名おり 自立への課題が山積。
- (4) 幼児の発達への課題に取り組む 絵本の読み聞かせボランティアの活用により、絵本を読んでもらうことの楽しさ、きく態度が着実に身につけている。読み聞かせボランティア(綿の花月2回・ゴマだんご隔月・地球お話し村隔月)
学習指導員は2名から1名に減り習得レベルは低くなったが学習時間は落ち着いて取り組めるようになった。

2. 子どもの命と人権を守り育む

- (1) セカンドステップ・コモンセンスペアレンティングの継続実践と応用
CSPについては職員・児童ともプログラムに基づく実践が恒常的に行われ 感情のコントロールなど暴力。暴言を用いない養育のスキルが定着しつつある。一方職員により習熟度や実践に差がある。
生活の中でのセカンドステップの活用は不十分であった。
- (2) 被措置児童等虐待を防止するための取り組み
自治会での勉強会や個々の悩みや困っていることについて話し合いを重ねた。権利ノートの配布と説明や「いじめ」「暴力」などについて話し合いを行った。
人権研修を実施。卒園生当事者の立場からCVVの方からの話しを聞く
心理士による高齢児の意見の汲み取りを行い 早期発見につなげた。
- (3) 性教育の実施
気持ホット委員会を中心に定期的な取り組みを実施。

3. 安心安全な環境づくり

- (1) 生活単位・施設の小規模化の推進
 - ①地域小規模児童養護施設(洗心館は新たに男子中高生を中心としたメンバーでスタート 職員も住込み職員を含む3人+非常勤体制で)
本体施設との相互理解と支援が必要であるとの経験から 本園の行事への参加や 各種会議等への出席 日々の連絡調整など 意識的に行いチームとしての支えあいを重視した。
 - ②小規模グループケア(男子Cチームの家庭的養護の実践)職員が途中で退職し 一人勤務が多くなったことと 低学年男子に高校生女子2名が加わったことで 生活時間や個々の指導に余裕が持てなかった。

③第2地域小規模児童養護施設の開設(25年度4月)

④旧館建て替え準備委員会の立ち上げ 1年間 検討委員会の協議内容を受けて進めた。
基本構想が決定し、ソフト面でのあり方の検討に入る。25年度中の着工を目指す。

(2) 危機管理意識を高め実践す

危機管理意識は個々の職員に一定意識づけされたが、各部署ごとにリスクマネージャーを置き組織としての取り組みまでには至らなかった。事故やけがは減少してる。

災害対応の訓練が課題

幼児は日中子どもの多くいる時間帯に職員配置を厚くすることで事故予防につながった。

(3) 児童のスポーツ活動支援

小学生 サッカー6・ソフト12・柔道8・ミニバス6 小学生52名中32名

中学 陸上10・野球3・柔道1・パソコン4・家庭科3・美術1 中学生22名全員

高校 野球・硬式テニス・サッカー・ダンス・バスケ・写真・柔道・家庭科・軽音

高校生21名中15名入部(その他高校生で進路等目的が明確になっている児童についてはアルバイトを奨励している 5名)

(4) 食育の取り組み

中高生の調理場体験・お手伝いの実施 体験中の時間厳守や挨拶などのルールも含めて指導ができた。

嗜好調査の実施-食事に満足している ハイ75%(47%)イイエ22%(38%)その他3%(15%)

()内は職員

非常食調理実習の実施(2回)

各部署でこどもと一緒に食事し 子どもからの感想や食事の様子を報告した

4. 施設・職員の組織再編強化 (チームワークとリーダーシップづくり)

(1) 管理職の組織のリーダーとしての運営管理職員研修 主任・副主任対象(年5回実施)

中堅のリーダーシップを育てる(年5回リーダー研修実施)

(2) 法人の理念に基づいた児童養護施設の組織の目指す方向性と進み方の具体化

大規模施設から小規模化・家庭的養護への転換をはかる 地域小規模児童養護施設の増設・幼児棟の改築に伴う 小規模化ユニット化の具体化をはかり 施設の目標の明確化と実行。

(3) 職員間の意志疎通・他部署児童への接触・他部署の理解を深める

職員相互の親睦会の再開。階層別園内研修の実施 交換研修の実施

(4) 専門職(心理士・家庭支援専門員)の充実

個々のケースについて専門的立場からの意見も含め総合的な協議を行うようになった

5. 地域との関わり強化とボランティアの活用

大江幼稚園・天王寺小学校・中学校区を地域と捉え、各学校・PTA・連合町会・青年会など

地域における諸行事への主体的参加(祭り・イベント・盆踊り)や地域クラブ活動・PTA活動・学校協議会への参画など 卒園生が築いた地域での関係を基礎に一定の成果が上がっているが 地域に意義のある施設として存在するには まだまだ課題は多い

ボランティアは50名を超え、コーディネーターの配置が必要。

6. 改修・設備・備品購入関係

新館屋根防工事-実施せず

新館 一心寺側の側溝下の土地の浸食対策-実施せず

非常用自家発電機の交換